

お札と切手の

Contents

館外活動報告

新収蔵品紹介

特別展ダイジェスト

お金と切手の展覧会 in 長崎

凹版印刷物「ナポレオン像」

「のりもののお札おもしろ展」

博物館ニュース

紙幣研究所

紙幣研究所



Banknote and Postage Stamp Museum News

2006/10/30

Vol.21



『のりもののお札おもしろ展』

平成18年7月19日(水)から平成18年10月9日(月)まで、当館2階展示スペースにおいて、平成18年度第1回特別展『のりもののお札おもしろ展』を開催しました。

世界各国のお札には幅広いのりものが取り上げられています。のりものは大変古い歴史をもち、世界中で進歩を遂げながら、私たちの生活と密接にかかわってきました。お札には、発明・使用した人物とともに描かれる有名なのりもの、最先端の技術を搭載したのりもの、古くから使われている伝統的なのりものなどが取り上げられています。

展示では、さまざまな種類や用途をもつのりもの、著名人とのかかわり、のりもののあゆみ、といったテーマをお札でとり、のりものがお札に描かれる意味を紹介しました。会場内では、航空科学博物館からお借りしたコンコルド、ザ・ロープ(帆船模型同好会)からお借りしたサンタ・マリア号など、多くのご協力を得て模型展示も行いました。

8月末までの毎週火曜日には、国立印刷局でお札などのデザインに携わっている工芸官と呼ばれる職員が、お子さんを対象に「マス目写し」という模写技術を指導する「お絵かき教室」を実施しました。また、併設した手すき体験コーナーでは、職員指導の下、多くの方がすかし入りはがきを手作りしていました。

ここでは、その一部をご紹介します。

写真に写られている方と
連絡が取れないため、
掲載を見送っております。

展示室

写真に写られている方と
連絡が取れないため、
掲載を見送っております。

お絵かき教室

写真に写られている方と
連絡が取れないため、
掲載を見送っております。

手すき体験コーナー

お札とのりもの

のりものは、なぜお札に描かれるのでしょうか。

世界各国で見られるお札ののりものは、地域によって種類が異なります。その特徴から、理由が見えてきます。

アジア・アフリカのお札

最新技術を使ったのりもの、国をあげて取り組んでいる産業とかかわるのりものなど、生活に密着した、比較的新しいのりものを取り上げる傾向が見られます。

最新技術を使ったのりもの

◆マレーシア 10リンギ（裏）1997年



お札には実用的な最新ののりものとして、陸海空のそれぞれ、高速列車プトラ線、コンテナ船、ジェット機（ボーイング777-200）が描かれています。

マンガンの空輸

◆ガボン 1000フラン（裏）1974年



中央アフリカ・赤道直下に位置するガボンには、年間降水量が多く道路の維持が難しいため、主要工業製品の移動はもっぱら空輸です。

ヨーロッパのお札

世界に先駆けたパイオニアとして、自国出身の人物が発明・使用するなど、国の歴史とかかわりが深い、古代から近代ののりものを取り上げる傾向が見られます。

航海者コロンブス

◆スペイン 5000ペセタ（表）1992年



クリストファー・コロンブス（1446ごろ-1506）はイタリア出身の航海者ですが、航海を全面的に援助したのがスペイン女王であったため、スペインのお札にも描かれています。

空気タイヤを発明したダンロップ

◆北アイルランド 10ポンド（表）1997年



ジョン・ボイド・ダンロップ（1840-1921）は、当時走りにくかったゴムタイヤを改良して空気タイヤを発明しました。

このような特徴をもってお札に取り上げられるのりものの図柄は、お札を目にする世界各国や、お札を使う自国民に向けて、国が力を入れている産業・製品を示し、先端技術を取り入れた国産ののりものを宣伝する役目をもっています。

同時に、世界の中での国の貢献度や技術の高さを表すことで、世界と自国との連帯感をアピールしているのです。

さまざまなもの

飛行機

飛行機は1903年、アメリカのライト兄弟が飛行した後に実用化された比較的新しいのりものです。戦争によって急速に発達し、現在では私たちの生活に定着しています。お札には、その国の有名人が使用するなど歴史に残る飛行機や、最先端の飛行機と国際空港が描かれています。

複葉機 ブレゲー 14

◆フランス 50フラン（裏）1992年



『星の王子さま』の作者サン＝テグジュペリが操縦していた郵便輸送機として有名です。

チャンギ国際空港上空を飛ぶコンコルド G-BOAD 210

◆シンガポール 20ドル（裏）1979年



イギリスとフランスが共同開発したコンコルドは、時速2179kmで飛行する超音速旅客機です。しかし、公害問題などによって2003年に姿を消しました。



スカルノ・ハッタ国際空港上空を飛ぶボーイング747-400

◆インドネシア 50000ルピア（裏）1993年

ボーイング747型は、世界で最もよく知られた飛行機で、「ジャンボジェット」の通称で呼ばれています。

船

お札には、それぞれの国で歴史に残る有名な船・伝統的な船や、実用的な最新の船が描かれています。船は最も歴史が古いのりもので、世界中で幅広い目的をもって使われてきたため、さまざまな種類や形があります。

コロンブスが率いたカラック船とカラヴェル船

◆イタリア 5000リラ（裏）1971年



3隻の船は、イタリアの航海者コロンブスが率いたものです。それぞれ、サンタ・マリア号（右）は四角帆（順風帆走用）と三角帆（逆風帆走用）とを組み合わせたカラック船、ピント号（中央）は三角・四角帆併用のカラヴェル・レドンダ船、ニーニャ号（左）は三角帆のみのカラヴェル・ラティナという種類でした。

祭事用の国王専用船「スワンナホン」

◆タイ 100バーツ（裏）1968年



この船は、14世紀から使われている伝統的な船で、記念行事の際、ほかの王室船とともに行列してチャオプラヤ川を下ります。

機関車

たくさんの人々や荷物を乗せた車両をひいて、レールの上を走るのが機関車です。蒸気力で動く機関車は蒸気機関車、ディーゼルエンジンで動力を作り出す機関車はディーゼル機関車、そして、電気で動くのは電気機関車と呼ばれています。

蒸気機関車～ロコモーション号とロケット号～

◆イギリス 5ポンド（裏）1990年



ロコモーション号とロケット号は、イギリスのステューブソンによって作られた蒸気機関車です。蒸気の圧力によるピストン運動を直接車軸に伝える仕組みとなっています。

ディーゼル機関車

◆カンボジア 0.5リエル（表）1979年



1897年にドイツのディーゼルがディーゼルエンジンを発明しました。少ない燃料で列車をひけるだけの大きな力を作り出せるので、ディーゼル機関車は世界の国々で利用されるようになりました。

自動車

自動車ができる前は、馬車が活躍していました。初めての自動車できたのは、1771年のことです。蒸気で動くこの自動車は、馬より経済的だったので、世界中でつくられるようになりました。また、空気タイヤが発明され乗り心地もよくなりました。現代の自動車につながるガソリンエンジンを備えた最初の自動車できたのは、1886年のことでした。

空気タイヤをつけた自動車

◆北アイルランド 10ポンド（表）1988年



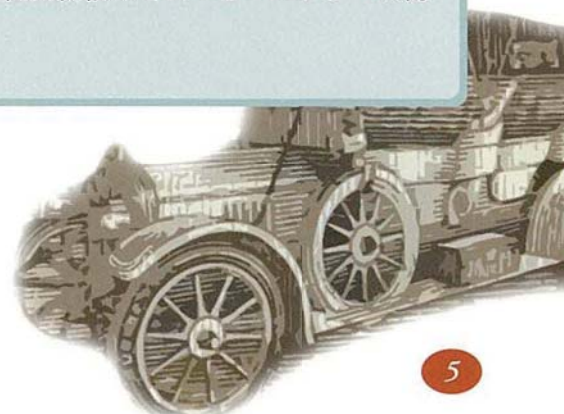
1888年にアイルランドのダンロップが乗り心地のよい空気タイヤを発明し、それが自動車や自転車に用いられるようになりました。

馬車

◆バハマ 20ドル（表）1997年



首都ナッソーのダウンタウンでは観光用の四輪馬車が走っています。お札の図柄は国会議事堂の建物前に停車する馬車と初代大統領のミロ・B・バトラーの肖像です。



のりものの発達

人や動物の力に頼っていた時代は移動距離や運搬量が限られていましたが、科学の発達によりのは大型化、高速化し、遠く離れた国からあらゆる品目が大量に輸入できるようになりました。また、大型旅客機の登場は、空の旅を身近なものにし、自動車・電車は日常生活に欠かせないものとなりました。一方、のりものに使われているエンジンは、動力源として工事用機械や農作業機械にも使われています。

物を運搬するのりもの

輸出品を運ぶ貨物船



◆ガーナ 5000 セディ (裏) 1994年

貿易品を積んだ貨物車をひくトラック



◆エリトリア 10 ナクファ (裏) 1997年

人の移動に使われるのりもの

国際空港と大型旅客機



◆香港 500 ドル (裏) 2003年

旅客列車



◆シリア 100 ポンド (裏) 1998年

工事現場や農作業で活躍するのりもの

パワーショベルとブルドーザ



◆ジャマイカ 10 ドル (裏) 1985年

耕運機



◆エチオピア 10 ブル (裏) 1997年

◆新収蔵品紹介

凹版印刷物 大山助一彫刻「ナポレオン像」

このたび、明治～大正期に印刷局で数々の肖像彫刻にあたった大山助一（1858-1922）による、初期の凹版印刷物「ナポレオン像」（明治13年／1880）を新たに収蔵しました。

大山は、14歳で北海道開拓使の留学生として渡米したのち、絵の才能を生かして大蔵省紙幣寮（国立印刷局の前身）に幼年技生として採用され、当時活躍していたお雇い外国人キヨッソーネの下でヨーロッパ式凹版彫刻技術を学びました。この間に彫刻したのが「ナポレオン像」です。その後も技術向上を図るため、アメリカの政府財務省証券印刷局に研修留学し、アメリカン・バンクノート社に勤めるなどして国内外に多くの彫刻作品を残しました。帰国後は、太く大胆な画線を使う力強いアメリカ式彫刻技法を印刷局に導入し、その技術は現在にまで受け継がれています。

当館では、大山の作品として、渡米後のアメリカ式技法による彫刻作品を所蔵しています。一方、新収蔵の「ナポレオン像」は、キヨッソーネ直伝のヨーロッパ式（美的感覚で繊細な画線を使う）技法で制作した初期の彫刻作品であり、大山による方式別の技法や、当時の技術を知る上で大変意義があるものです。



大山助一
(1858-1922)



ナポレオン像
明治13年

大山の手による代表的な紙幣肖像



藤原鎌足
甲100円
明治33年



菅原道真
乙5円
明治43年



◆「お金と切手の展覧会」in 長崎

平成18年8月16日(水)～8月22日(火)

財団法人印刷朝陽会が主催する第29回「お金と切手の展覧会」が長崎大丸にて開催されました。国立印刷局は後援として参加し、当館も展示品やパネルを貸し出しました。

あいにく台風と時期が重なってしまいましたが、多くの方が彫刻・印刷の実演コーナーや、日本のお札・切手の歴史等のコーナーを見学されました。普段はなかなか触れ合うことのない長崎の方たちとコミュニケーションをとり、多少なりとも国立印刷局とお札・切手についてご理解いただけた、貴重な機会となりました。

写真に写られている方と
連絡が取れないため、
掲載を見送っております。

写真に写られている方と
連絡が取れないため、
掲載を見送っております。

お知らせ

◆特別展「明治における古美術調査の旅—『国華余芳』の誕生—」を開催◆

明治12年5月、印刷局員は東海・畿内地区へ142日間にわたる文化財調査の旅に出ました。来年1月5日から開催予定の特別展では、この調査旅行を主なテーマとし、印刷局員がたどった旅路や調査した文化財をご紹介しますとともに、旅の成果として残した印刷物を通して、この旅は局内外にとってどんな意味を持つものだったのかについて迫ります。展示する『国華余芳』は、旅先で観覧した文物や山川の景勝を図集や写真帖にまとめたものです。特に正倉院御物や伊勢神宮神宝が石版印刷で見事に表現されています。ぜひ、ご覧ください。

ご利用案内

- 開館 9:30～16:30 入館無料
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)、
年末年始
- 所在地 〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町9番5号
TEL: 03(3268)3271
- 交通
 - JR総武線市ヶ谷駅下車 徒歩15分
 - 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車 徒歩10分(6・7番出口)
 - 都営地下鉄新宿線
曙橋駅下車 徒歩10分(A3番出口)
 - 都営地下鉄大江戸線
牛込柳町駅下車 徒歩10分(東口出口)
- 駐車場 大型バス5台または乗用車30台



■ホームページアドレス

<http://www.npb.go.jp/ja/museum/>

本号の表紙

本号の表紙は「印刷局研究所調査報告」第5号(明治44年5月4日発行)の表紙をもとにデザインしました。この表紙の図案・印刷担当は、印刷局活版部です。

デザインは飾り罫のみで、花を模した罫線を線対称に配置しています。非常に簡素なデザインながらも、箔押しされた上下のリボンと四隅の丸の金色が全体を引き締めると同時に、上品さを醸し出しています。



ところで、印刷局における活版業は、明治8年に政府の活版事業所であった正院印書局が印刷局の前身、紙幣寮の所属となったことにより本格的に始まります。扱ったものは、太政官日誌や職員録、布告などの書類と機密印刷物に限られていました。

ちなみに、印書局にお雇い外国人として雇い上げられていた製本師のパターソンは紙幣寮に雇い継ぎとなり、洋式製本技術を紙幣寮に伝授しました。なお、パターソンが製本したといわれる『東巡録※』が当館に収蔵されており、当時の製本技術を知るうえで重要な資料となっています。

※明治天皇の東北地方巡幸の記録を一書にまとめたものです。